

### 3. 暮らし・自然・景観との融合

#### (1) まちづくりと一体となった港湾空間

水際線の散策やみなと祭り、コンサートなど各種イベントの開催などにおいて安全・快適に利用出来る多様なにぎわい空間の形成を図ります。

なお、港湾空間の再編にあたっては、地域が主体となって検討し、まちづくり計画全体とも連携しながら進めます。

(課題・要請)

- ・「みなと」は、元々は人々が集い・にぎわう空間でしたが、戦後の高度経済成長に合わせ、効率性を追及した整備が重視されてきたため、水際が一般市民から遠ざけられる結果となっています。



まちづくりとみなとづくりの連携イメージ  
(函館駅周辺再開発事業の例)



紋別港南緑地

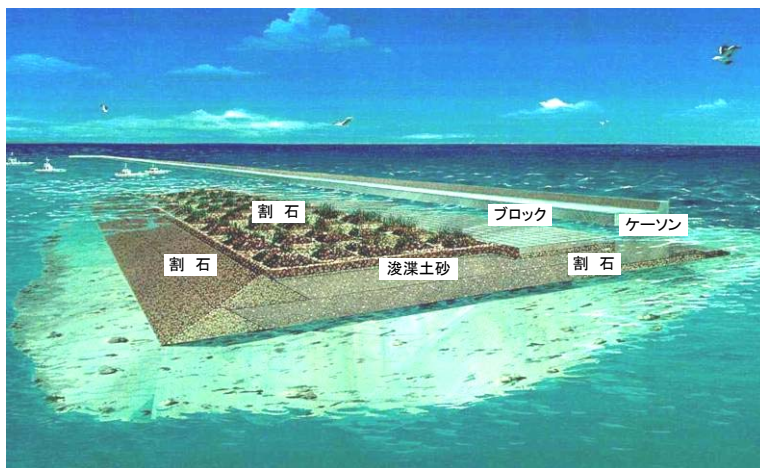
#### (2) 生物環境、自然環境と調和した港湾空間

港湾施設の配置は、生態系が広域的であることを十分踏まえ計画段階から環境へ配慮するほか、施設形状の工夫による環境に配慮した「環境共生型港湾」の整備をより積極的に進めます。

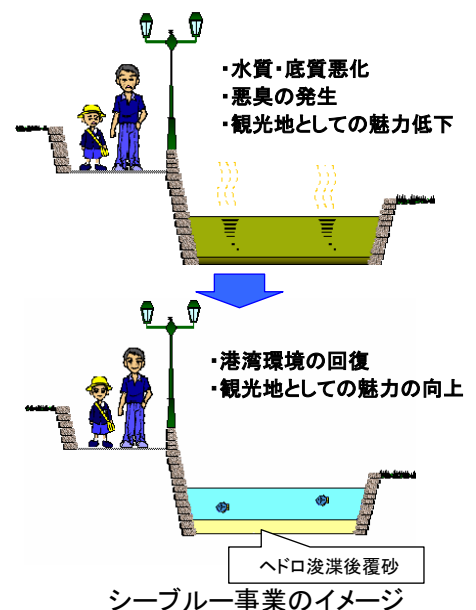
環境への負荷の小さい構造形式の採用に努めるほか、海水交換やシーブルー事業などによる港内の水質浄化や、失われた自然海浜の復元を進めます。

(課題・要請)

- ・近年、港湾施設本来の機能を満足することに加え、施設の形状を工夫することによって、新たに生物が生息可能な空間を創り出すなど環境に調和した工夫が求められています。



釧路港環境共生型防波堤



【用語メモ】

シーブルー事業：良質な砂を使って汚染された底質の改善を図り、自然浄化作用を高めること

### (3) 快適な港湾空間

#### ① 港湾施設へのユニバーサルデザインの導入

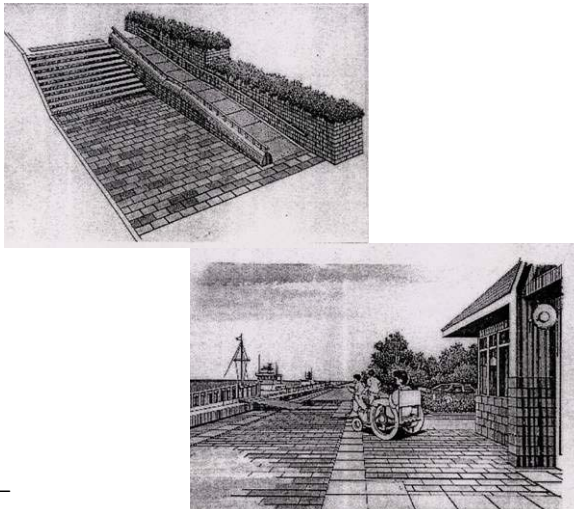
高齢化や北東アジアとの交流の進む北海道において、フェリーや旅客船ターミナルなど人の集まる施設や空間を中心に、「ユニバーサルデザイン」の導入を他の交通機関や都市施設とも連携して進めます。

(課題・要請)

- ・ 社会の成熟化、少子高齢化、国際化などのニーズが多様化していくこれからの社会においては、高齢者や身障者の利用に配慮した「バリアフリー」をさらに拡大させ、「万人の利用」を考えたユニバーサルデザイン（UD）の公共施設への導入が求められています。

原則	内容	事例
1 公平性	使う人によって不利にならないこと	自動ドア
2 自由度	フレキシビリティがあること	左右どちらからでも使えるハサミ
3 単純性	単純でやさしく使えること	絵による説明、動く歩道
4 わかりやすさ	不必要なものを省く、視覚に訴えるデザインであること	駅や空港等のサインシステム
5 安全性	デザインが原因の事故をなくすこと	誤りを簡単に直すことができるコンピュータソフト
6 省力化	余計な体力や力を使わなくて済むこと	さわるだけで点灯する照明器具
7 スペースの確保	サイズや広さが有効であること	駅の改札口、公衆トイレ

出典 すべての人にやさしいまちづくり事例集 (財)地域活性化センター



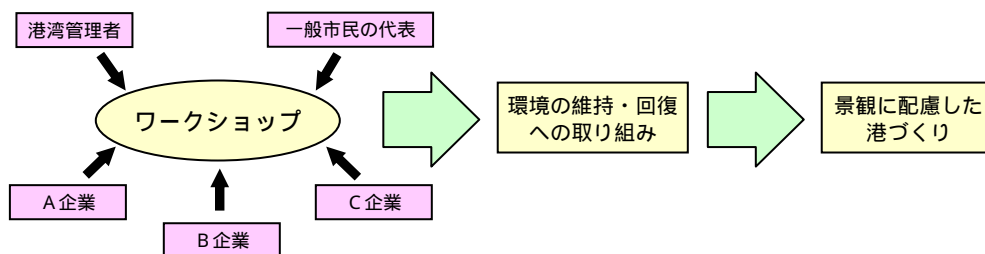
公共施設への導入が求められているUD機能

#### ② 景観に配慮した港湾空間

港湾を訪れる人が快適でもう一度訪れたいと感じさせるようにするため、地域のNPOなどとも連携し、地域・市民が一体となって周辺環境と調和した快適な港湾景観の形成に努めます。

(課題・要請)

- ・ 港湾空間は、その一部で観光客や市民など人々が訪れるにぎわい空間として活用されるようになってきていますが、この空間が快適であり、もう一度みなどを訪れたいと感じさせるようにするためには、欧州の港湾のように色彩をはじめとした景観への配慮も必要となります。



地域が一体となった環境や景観形成のプロセス  
(静岡県清水港での事例)

#### 【用語メモ】

ユニバーサルデザイン：あらゆる人達が快適に利用できる施設などのデザイン  
NPO：市民運動やボランティア活動をする人々が結成する非営利の団体や法人

#### (4) 愛着のもたれる港湾空間

北海道の歴史的・文化的・技術的に価値のある港湾施設や海洋文化を後世にも継承するため、歴史的施設の保存、資料館の設置などに取り組むとともに、シンポジウムなどの広報活動を行います。

(課題・要請)

- ・小樽港の防波堤や稚内港の北防波堤ドームが北海道遺産に指定されるなど、北海道には、歴史的・文化的・技術的価値のある港湾施設が存在します。



稚内港北防波堤ドーム

【用語メモ】

シンポジウム：一つのテーマについて、何人かの講演者が意見を述べ、聴衆の質問に答える討論会